



2018年で100周年

国土交通省 千曲川河川事務所

Chikumagawa River Office
Hokuriku Regional Development Bureau
Ministry of Land
Infrastructure, Transport and Tourism

【取り扱い】 本資料の発表をもって解禁

記者発表資料
平成28年3月15日

千曲川でサケの稚魚を発見！

「河川生態学術研究会 千曲川研究グループ（代表・平林公男信州大学教授）」は、国土交通省の「平成27年度河川砂防技術研究開発公募」により、千曲川で調査研究を行っています。今回、その調査の中でサケの稚魚を発見しましたのでお知らせします。



発見されたサケの稚魚（体長約4cm）

【配布先】

- ・長野市政記者クラブ
- ・長野県庁会見場
- ・長野市政記者会
- ・日本工業経済新聞社 長野支局

【問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局
千曲川河川事務所 026(227)7611
副所長 長谷川 賢市（はせがわ けんいち）



千曲川河川事務所 フェイスブック

検索

クリック



千曲川河川事務所

検索

クリック

<http://www.hrr.mlit.go.jp/chikuma/>

●河川生態学術研究会千曲川研究グループとは

河川管理はこれまで、水害の防止や水資源の確保など、治水、利水を目的とした整備に重点を置いて進められてきた。しかし、近年、河川が本来持っている自然環境の役割を見直して、河川管理のあり方を再検討しようとする気運が高まってきた。一方、多くの生態学研究者が、開放系であり、攪乱と修復が高い頻度で起こる河川生態系に興味を持ち、このような環境のなかでの生物の生活や、河床、河川敷など河道に生活する生物群集が河川の構造と機能に与える影響の研究を進めるようになってきた。

建設省(現国土交通省)は平成6年1月に環境政策大綱を定め、河川行政においても積極的に環境を取り込むことを定め、平成7年9月河川審議会が河川行政に対し「生物の多様な生息・生育環境の確保」「健全な水循環系の確保」などを積極的に取り入れることを答申している。

このような状況の中で生態学と河川工学の研究者は、河川生態系に焦点をあてた研究を進め、これまで知見の少なかった変動する環境下での生物の生活と集水域を含めた河川生態系の機能と構造が河川環境に及ぼす影響を明らかにしつつ、河川の本質の理解を深めることが重要であるという認識にいたった。

そこで両者が共同して河川生態学術研究会を創設し、新しい河川管理を検討するための総合的な研究を進めることになった。

千曲川研究グループは全国に存在する河川別研究グループの中の1つである。

URL: <http://www.rfc.or.jp/seitai/seitai.html>

((財)リバーフロント研究所HP)

●河川砂防技術研究開発公募とは

水管理及び国土保全行政における技術政策課題を解決するため、産学の持つ先端的な技術を積極的に活用し、産学官連携による技術研究開発を促進することを目的として創設された制度で、技術分野や課題毎に産学官連携による技術研究開発体制を構築することによる課題の解決を目指します。

URL: <http://www.mlit.go.jp/river/gijutsu/kenkyu.html>

(国土交通省HP)